京都日本画新展
2024

京都
日本画
2024 新展

ごあいさつ

「京都懇談会」の提言を受け、若手日本画家の活動を奨励することを目的として2008年度に創設した「京都 日本画新展」。2013年度からの「続（しょく）『京都 日本画新展』」と合わせて、15年以上にわたり作品の発表の場を提供してまいりました。現在、同展出品を経て、多くの作家が各方面で活躍しています。引き続き、日本画を志す若手作家とともに、京都ならではの日本画展を目指し、「京都 日本画新展」を開催いたします。

京都における日本画は「京都画壇」として数多くの日本画家を輩出し、また日本画の世界で育った人材は京都の美術・工芸・伝統産業を支えてきました。私たちは創造性あふれた若い人材の活動を奨励し、京都文化の発展に寄与することを目指しています。

本展では、大賞・優秀賞受賞作をはじめ、推薦委員から推薦を受けた20～40歳代の計30作家の秀作と、推薦委員の日本画家の新作を合わせて展覧いたします。

今後も「京都 日本画新展」が将来有望な若い作家たちにとって研鑽の場となり、また多様な展開を見せる現代日本画の新しい試みの一つとして、京都画壇の一助となることを願っています。

2024年２月

主催者

Greetings

Based on the proposal of the Kyoto Advisory Panel, “The New Kyoto *Nihonga* Exhibition” was established in 2008 with the goal of encouraging the activities of younger generation of Japanese artists. Together with the sequel of “The New Kyoto *Nihonga* Exhibition” from 2013, we have provided an exhibition to showcase artwork for over 15 years. Currently, many artists are actively involved in various fields after participating in our exhibitions. We’d like to continue our exhibition together with the aspiring new generation of artists that is unique to Kyoto.

The Japanese arts through “Kyoto Art World” have groomed many artists that have supported the arts and crafts, as well as the traditional artistry of Kyoto. Our goal is to contribute to the development of Kyoto culture by encouraging the next generation of creative youthful artists.

In our exhibition, together with the Grand Prize and Excellence Award Winning Arts, we will exhibit the excellent artwork from a total of 30 artists in the age ranges of 20s to 40s, as well as the new Japanese artwork recommended by the panel.

We hope that our “Kyoto Art World” will continue to be the educational venue for potential young artists and that it will be the beacon of displaying the new attempts and the various development of contemporary Japanese artistry.

February 2024

The Organizer

「京都 日本画新展」について

「京都 日本画新展」は、日本画を志す若手作家の創作活動の奨励・支援を目的として2008年度に創設されました。以来、若手日本画家たちの自由な表現の場として、また同世代作家たちとの研さんの場として毎年本展を開催してきました。

2013年度からは、「続（しょく）『京都 日本画新展』」、そして、2018年度からは京都府、京都市、京都商工会議所が共催に加わり、京都全体で取り組む日本画の展覧会として継承しています。

本展への出品は、京都、滋賀、奈良、大阪の大学で日本画の指導にあたっている先生方に推薦委員を委嘱し、より幅広い視点で、より多様な若手作家を毎年、推薦いただいています。また、受賞作品の選考にあたっては、日本画家をはじめとしたものづくりに携わる作家の方々に選考委員を務めていただきました。

出品の条件は、京都を中心に活動する、あるいは京都に縁のある、概ね20～40歳代の若手作家です。推薦委員により候補者を選定し、出品依頼を行います。

今年度は、30人の出品者に新作を制作していただきました。2023年11月17日に選考会を実施し、大賞１点、優秀賞２点、奨励賞（京都府知事賞、京都市長賞、京都商工会議所会頭賞）３点を選出しました。

本展では、受賞作品を含む30作品を展示。あわせて推薦委員６人の作品も展示します。引き続き、日本画を志す若手作家とともに、「京都 日本画新展」を展開していきます。

京都 日本画新展2024

会期：2024年２月２日（金）～２月11日（日）
会場：美術館「えき」KYOTO

主催：西日本旅客鉄道株式会社、京都新聞
共催：京都府、京都市、京都商工会議所
後援：京都府教育委員会、京都市教育委員会、KBS京都、エフエム京都

［推薦委員］
石 股　　昭（奈良芸術短期大学教授）
雲丹亀利彦（京都精華大学教授）
大 沼 憲 昭（嵯峨美術大学教授）
川 嶋　　渉（京都市立芸術大学教授）
西久松吉雄（成安造形大学名誉教授）
村 居 正 之（大阪芸術大学教授）

［選考委員］
内田あぐり（日本画家、武蔵野美術大学名誉教授）
大野　俊明（日本画家、成安造形大学名誉教授）
澤田　瞳子（小説家、同志社大学客員教授）
下出祐太郎（蒔絵師、京都産業大学名誉教授）
村上　良子（紬織作家、重要無形文化財保持者）

（いずれも五十音順・敬称略）

図版

大賞　ある部屋の光　A Room

山部 杏奈

やまべ あんな／YAMABE Anna

1996 京都市に生まれる｜2019 個展（ALC Library&Gallery／京都 同20年）｜2021 京都市立芸術大学大学院絵画専攻日本画領域修了、個展（LADS GALLERY／大阪 同23年、ギャラリー恵風／京都 同22年）｜2022 京都 日本画新展 奨励賞・京都市長賞（美術館「えき」KYOTO）

◎本展出品作について作家より

自宅の窓辺の風景をモチーフに制作しています。同じ部屋、同じ窓を元に何度も描いてきました。描き始めた時の新鮮な光景を追いながら、窓は常に現在の姿でそこにあり続けます。
作品は、これまで見つめてきた部屋自身の記録です。

優秀賞　おしゃべりな糸屑たち　Talkative Thread

竹下 麻衣

たけした まい／TAKESHITA Mai

1999 島根県大田市に生まれる｜2022 嵯峨美術大学芸術学部造形学科日本画・古画領域卒業、Idemitsu Art Award グランプリ（国立新美術館／東京）｜2023 D-art,ART（大丸東京店）、個展「部屋のなかをみてまわる」（LADS GALLERY／大阪）

◎本展出品作について作家より

ある日、縫い物をしていた。
卓上で散らばる糸屑が自然な線や形を描いていた。
意図的ではない線や形はおしゃべりをしているようにみえた。

優秀賞　迷子の風　Wind to Get Lost

古谷 優加子

ふるたに ゆかこ／FURUTANI Yukako

1986 兵庫県姫路市に生まれる｜2010 創画展入選(同11、14年)｜2011 成安造形大学日本画クラス研究生修了｜2012 京都 日本画新展(美術館「えき」KYOTO 同15、23年)｜2013 京都日本画家協会展(京都文化博物館 同21年)

現在 京都日本画家協会会員

◎本展出品作について作家より

娘の存在は生の実感だ。
かつての私が見ていた景色の片鱗を覗かせてくれる。
子供の頃に覗いた世界を、娘を介して表現できたらと思う。

奨励賞・京都府知事賞　継ぐ　Succeed

高山 紀久恵

たかやま きくえ／TAKAYAMA Kikue

2000 秋田県雄勝郡に生まれる｜2021 日春展入選(同22、23年)、日展 入選(同22年)

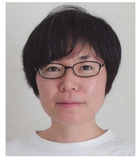
◎本展出品作について作家より

地元で毎年行われる盆踊りでは子供からお年寄りまで幅広い年代の方々が笠や頭巾で顔を隠して踊り、その中にはお盆で帰ってきたご先祖様たちも一緒に交じって踊っていると言われています。
大人の踊りを見ながら一生懸命踊る子供の姿を見て、次の代へ受け継がれていく様子を作品に残したいと思い制作しました。

奨励賞・京都市長賞　時がふりつもる　Time Accumulates

小熊 香奈子

おぐま かなこ／OGUMA Kanako



1981 大阪府和泉市に生まれる｜2004 大阪芸術大学大学院芸術制作研究科修士課程修了｜2008 日春展 奨励賞｜2019 京都 日本画新展（美術館「えき」KYOTO 同20年）｜2021 日展 特選

現在 日展会友

◎本展出品作について作家より

日々の制作の彩りにと画室の片隅に生けた花たち。盛りを過ぎて終わりの時を迎えていきました。時をつむごとに変化していく花々の表情は美しく、終わりの中に豊かな彩りを感じさせました。傍らに眠る猫のように、変わりゆく景色を受け入れ、静かに見つめていたいと思いました。

奨励賞・京都商工会議所会頭賞　痕跡　Trace

田中 達也

たなか たつや／TANAKA Tatsuya

1984 兵庫県尼崎市に生まれる｜2007 日展 入選（同８、10、11、17～19年、21年無鑑査、20、22年特選）｜2009 宝塚造形芸術大学大学院修士課程修了、日春展 入選（同12、14、16～18、22年、13、19、21年奨励賞）｜2021 京都 日本画新展（美術館「えき」KYOTO）、飛騨高山臥龍桜日本画大賞展 奨励賞（岐阜県美術館、高山市民文化会館／岐阜）

現在 日展会友、新日春会会員、京都日本画家協会会員、兵庫県日本画家連盟理事

◎本展出品作について作家より

地元兵庫の高架下の壁や工場の壁を主軸に作品を創り上げていった。当初描き進めていたものに疑問を持ち、完成間近のものを潰し再構成し、新たに積み上げていった。そこには単純な抽象表現ではない写生で感じたものを創るということ、そして自身のテーマでもある「構成と蓄積」を意識した制作ができたと思っている。

とく　Comb

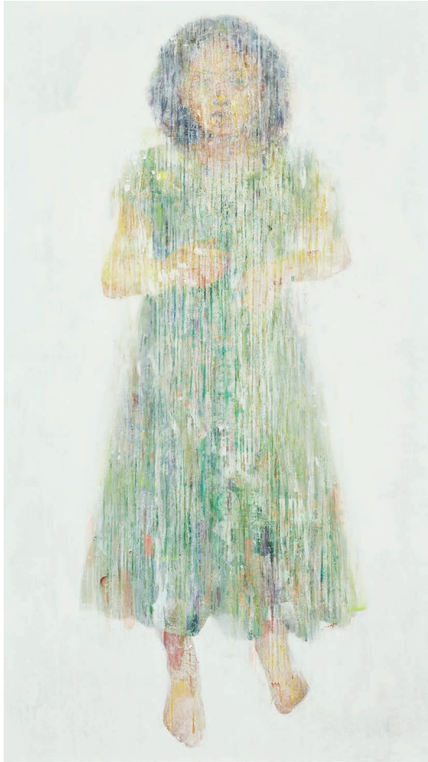
荒木 百花

あらき ももか／ARAKI Momoka

1998 滋賀県草津市に生まれる｜2021 石本正日本画大賞展 準大賞第一席（浜田市立石正美術館／島根）｜2022 成安造形大学美術領域日本画コース卒業（卒業制作展 優秀賞）、現代ART巡回展～THE CIRCLE～（ちいさいおうち／京都、ギャラリー国立／東京）｜2023 京都 日本画新展（美術館「えき」KYOTO）

◎本展出品作について作家より

よく行う動作にはどんなものがあるのか考えていた時に、無意識に髪を触っていることが多いと気づきました。何かを考えている時、不安な時、暇な時など様々な場面で触っていることに驚いたのと同時に、癖になっていることに面白さを感じ、今回描くことにしました。



Talk to Her

石原　葉

いしはら よう／ISHIHARA Yo

1988 宮城県仙台市に生まれる｜2020 山形 美の鉱脈―明治から令和へ（山形美術館）、後発的当事者（原爆の図丸木美術館／埼玉）、個展「Walking in the forest」（Cyg art gallery／岩手）｜2023 TUAD ART-LINKS（新宿高島屋／東京）

現在 京都精華大学芸術学部造形学科日本画専攻特任講師

◎本展出品作について作家より

対話について考えることがある。その問いを考えるために、私は一度人物を描き、胡粉で覆い、描いた像を浮かび上がらせようと手を動かす。
本作のモデルは俳優で、この絵の制作期間中、私たちは２人で演劇作品を作っていた。
稽古中に戯曲の解釈や互いについて話し合い、家に帰ってきてから言葉を発することのない彼女に対峙する。
はっきりと像を結ぶことができなくても続けること、それが対話なのではないかと考えている。

停まる　Stay in Place

宇野 加奈子

うの かなこ／UNO Kanako

1997 大分市に生まれる｜2020 大阪芸術大学芸術学部美術学科日本画コース卒業｜2021 日展入選（同22年）、関西美術大学選抜展（大阪高島屋 同22、23年）｜2022 日春展 新人賞（同23年入選）｜2023 ART STORY 80th 京都日本画家協会創立80周年記念展（京都文化博物館）

現在 新日春会会友、京都日本画家協会会員

◎本展出品作について作家より

昭和の記念館でおもちゃらしき車を見つけた。壊れており、かたちは歪んでいるが、当時の子供との関係が反映されているようで、妙になつかしさを覚える。

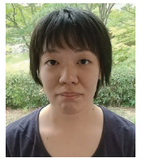
道路への関わり方や見え方そのものも、子供の頃とは完全に別物だろうし、かつての感覚を思い出すこともない。

しかし、車を見つけた瞬間だけは、失われた自分の身体が留まっている気がした。

猫又図 －明日も君と－　NEKOMATA Illustration – With You Tomorrow too –

及川 美沙

おいかわ みさ／OIKAWA Misa



1986 京都市に生まれる｜2010 日展 入選（同13、15、16、18～20、22、23年）｜2012 京都精華大学大学院芸術研究科博士前期課程修了｜2018 個展（生活あーと空間ぱるあーと／京都 同22年、アートスペース袖／京都 同23年、Gallery美の舎／東京）｜2020 京都 日本画新展（美術館「えき」KYOTO 同22年）

現在 日展会友、新日春会会友、京都日本画家協会会員

◎本展出品作について作家より

彼女は「にゃん」という挨拶を最後に、夏に姿を消しました。けれど、今日も近くでご飯を待っている気配がします。

江戸時代から、猫は長い間飼うと猫又になるという考えがあります。今も大好きな貴方の側に居るのかもしれません。

庭のまたたき　In a Twinkling of the Garden

河嶋 菜々

かわしま なな／KAWASHIMA Nana

1997 兵庫県宝塚市に生まれる｜2022 京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻日本画修了（制作展 同窓会賞）｜2023 個展「きらきらひかる」（ギャラリーモーニング／京都）、SICF24 EXHIBITION部門 デイリーアート賞（スパイラル／東京）、第１回ヨロコビto公募展“ライフアートアワード”大賞（ヨロコビto Gallery Cafe ArtCard／東京）

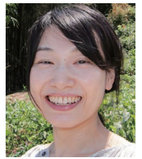
◎本展出品作について作家より

夜の庭の様子を描きました。夜の庭は暗闇に包まれ何も見えません。しかし暗闇を覗くと、かつて咲いていた草花たちを一つずつ思い出します。その草花たちのつながりはまるで星座のように感じるのです。かつて咲いていた草花やジョウロなど夜の庭を通して星々を感じていただけると幸いです。

追憶　Reminiscence

岸田 尚子

きしだ なおこ／KISHIDA Naoko



1978 大阪市に生まれる｜2004 京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程修了（修了作品展市長賞）｜2013 京都 日本画新展（美術館「えき」KYOTO 同14、15、18年）、個展「岸田尚子日本画展－水の季－」（ギャラリー恵風／京都 同21、23年）｜2020 郷さくら美術館桜花賞展（郷さくら美術館／東京）、郷さくら美術館 作品収蔵

現在 創画会会友、京都日本画家協会会員

◎本展出品作について作家より

私はいつも水のゆらぎや光と影、水に映る葉影に魅かれ、それらをモチーフに描いています。水に映る世界は現実とは異なる世界に見え、また自然の中で生まれくるものも朽ちてゆくものも全てが美しく感じられ、それらが融合した心象風景を描きたいと思いました。

別様のアルカディア　An Another Arcadia

合田 徹郎

ごうだ てつろう／GODA Tetsuro

1988 大阪府八尾市に生まれる｜2012 京都精華大学芸術学部造形学科日本画コース卒業｜2014 京都市立芸術大学大学院修士課程美術科絵画専攻日本画修了（作品展 同窓会賞）｜2016 シェル美術賞展 入選（国立新美術館／東京）｜2021 ARTIST'S FAIR KYOTO（京都文化博物館 別館）

◎本展出品作について作家より

私は普段からよく動植物を描きます。この絵では古典の中で度々画題として選ばれるテナガザルとビワを、現代を生きる私自身が描いたらどのような差異があるのか知りたく思い制作しました。特に、木の表皮や葉、猿の毛などを描く一筆一筆が、モノの「再現」でなく「生成」になるような意識で描きました。

日々　Day to Day

後藤 吉晃

ごとう よしあき／GOTO Yoshiaki

1983 山形県酒田市に生まれる｜2008 京都造形芸術大学大学院芸術表現専攻修士課程修了｜2023 Kyoto Art for Tomorrow－京都府新鋭選抜展－（京都文化博物館）、NIHONGA〇-en-（佐藤美術館／東京）、ART STORY 80th 京都日本画家協会創立80周年記念展 優秀賞（京都文化博物館）、個展「内景」（ギャラリー恵風／京都）

◎本展出品作について作家より

とりとめの無いものが琴線に触れたとき、その眼差しは対象に向かいつつも、半分は自らの内側の光景に向けられているように思います。記憶や捉え方といったものが像を成すその光景は、断片的、曖昧、かつ部分的には極端に鮮明に感じます。

本作は日々のうつろいを月を通して描きました。その日毎の質を感じ取り、愛でながら、一連の光景を画面に留めたいと思いました。

潦　Puddle

清水　薫

しみず かおる／SHIMIZU Kaoru

1990 奈良市に生まれる｜2011 春季創画展（同12年、13年春季展賞）｜2012 成安造形大学造形学部造形美術科日本画クラス卒業、京展 栖鳳賞（京都市美術館）｜2013 京都 日本画新展 優秀賞（美術館「えき」KYOTO 同14年出品）

現在 京都日本画家協会会員

◎本展出品作について作家より

流れ滞り、よどみを形成していく。堆積する枯れ葉や土の重厚な色の重なり、その上に映る空や景色は、時に息をのむほど美しく感じる。雨や風の名残を留め、時間の経過を閉じ込めたその存在にいつも強く心惹かれる。一色一色、色を重ねていく中で心情を重ね合わせ、自分の潦を表現できたと思う。

囲いの形　Shape of Enclosing

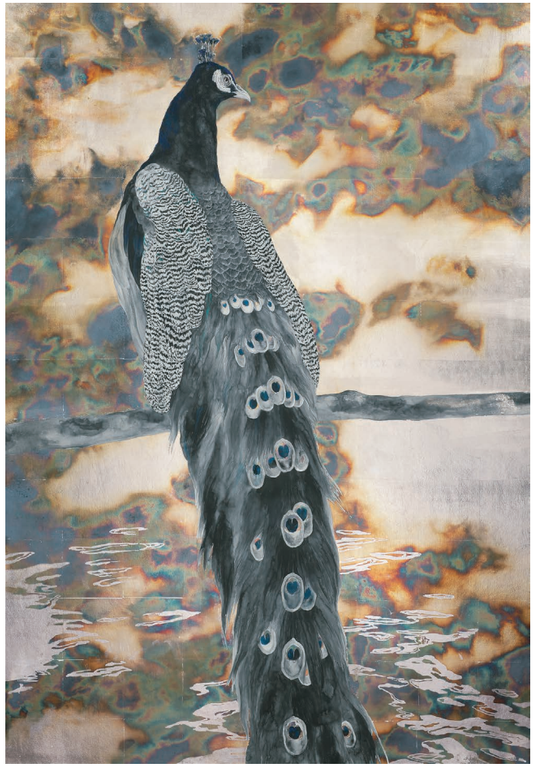
上西　樹

じょうにし いつき／JONISHI Itsuki

1995 京都市に生まれる｜2021 京都市立芸術大学大学院修士課程美術研究科絵画専攻日本画修了｜2022 創画展 入選（同23年）｜2023 春季創画展 入選、A Room with a View（山ノ外スタジオギャラリー／京都）、筍々会展（京都府立文化芸術会館）

◎本展出品作について作家より

「それがそこにある」という感覚は、対象とその対象が内包する空間のフォルムによって得られると考えています。本作では枝木をモチーフとし、それが内包する空間と、そうでない空間との間にあたりをつけながら、平面における空間表現を模索しています。



水景孔雀図　Peacock in a Waterscape

竹内 昌二

たけうち しょうじ／TAKEUCHI Shoji

1989 京都市に生まれる｜2012 京展 入選（京都市美術館 同14年市長賞）、日展 入選（以後出品、18、23年特選）｜2013 日春展 入選（以後出品、18、22年新日春賞、21年奨励賞）｜2014 金沢美術工芸大学大学院修士課程絵画専攻日本画コース修了

現在 日展会友、新日春会会員、京都日本画家協会会員、東丘社 所属

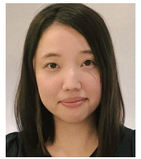
◎本展出品作について作家より

孔雀の凛とした姿が美しく、その姿を表現したいと思い制作した。
あまり色彩を使わずに表現しているのは、孔雀の美しさの中で色の美しさも大事な要素ではあるが、そこだけではなく、写生している中で形の美しさに魅力を感じたからである。
銀箔を硫黄で硫化させることで移り変わるさまと水面の揺らぎの中で移り変わるさまを重ね合わせ、孔雀とともに表現した。

巡る　Go Around

竹内 茉利

たけうち まり／TAKEUCHI Mari



1992 大阪府河内長野市に生まれる｜2013 全国美術大学奨学日本画展 準大賞（浜田市立石正美術館／島根）｜2015 創画展 入選（同16、19～21、23年）、石本正日本画大賞展 奨励賞（浜田市立石正美術館）｜2017 大阪芸術大学大学院芸術研究科芸術制作専攻修了、京都 日本画新展（美術館「えき」KYOTO 同21～23年）

現在 創画会会友

◎本展出品作について作家より

流れていく道と川と時。
気になった風景を重ねて交じり合うように描きました。
立ち止まって周りを眺めることも、この先が気になり進んでいくことも、どちらも大切な時間です。

華と遊ぶ　Play with Flowers

竹歳 和真

たけとし かずま／TAKETOSHI Kazuma

1998 大阪府枚方市に生まれる｜2021 石本正日本画大賞展 準大賞（浜田市立石正美術館／島根）｜2022 企画展「二回ひねって一度たつ」（KUMA GALLERY／東京）｜2023 嵯峨美術大学大学院芸術研究科芸術専攻修了（第51回卒業制作展 京進会長賞 ギャラリー倉賞 GT賞）

◎本展出品作について作家より

スイレンと出会い写生していくうちに茎が伸び、葉を広げ、華は咲いたり、閉じたり日々変化していることに気づいた。それは華が写生する私に対して何か応えているように感じた。私はそれにくらいつき必死に写生をした。その情景を思い返しタイトルを《華と遊ぶ》とした。

水上のアラベスク　Arabesque on Water

竹村 花菜

たけむら かな／TAKEMURA Kana

1996 京都府南丹市に生まれる｜2018 春季創画展 入選（同20、21、23年）、創画展 入選（同19～23年）、京都花鳥館賞 優秀賞（京都花鳥館 同19、20年、23年最優秀賞）｜2021 筑波大学大学院人間総合科学研究科博士前期課程修了｜2022 京都 日本画新展（美術館「えき」KYOTO）

現在 創画会会友、京都日本画家協会会員

◎本展出品作について作家より

自然豊かな土地で育った体験や記憶、そして現在までの動植物との出会いを元に「特別な何かじゃなくて、誰の日常でも遭遇し得ること」をテーマに植物や鳥を日々描いています。

あたたかい日　Pleasantry Warm

辻脇 怜奈

つじわき れいな／TSUJIWAKI Reina

1999 大阪府藤井寺市に生まれる｜2021 春季創画展 入選(同22、23年)、創画展 入選(同23年)｜2022 奈良芸術短期大学専攻科卒業｜2023 京都 日本画新展(美術館「えき」KYOTO)、学生日本画作品展(ホテルグランヴィア京都)

◎本展出品作について作家より

帰り道にふと見つけた場所です。太陽の光に照らされ、植物が輝いている様子に惹かれ制作しました。
がむしゃらに描いていますが、自分が見た感動を自分の色で表せたらと思います。

赤い靴　The Red Shoes

仲村　葵

なかむら あおい／NAKAMURA Aoi

2000 大阪府南河内郡に生まれる｜2021 日展 入選、関西美術大学選抜対抗展(大阪高島屋 同22年)｜2022 日春展 入選｜2023 佐藤太清賞公募美術展 佐藤太清賞(福知山市厚生会館／京都他)、大阪芸術大学芸術学部美術学科卒業(塚本学院校友会会長賞)

現在 大阪芸術大学大学院芸術研究科博士課程(前期)在籍

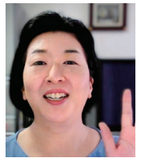
◎本展出品作について作家より

アンデルセン童話の『赤い靴』をモチーフに選びました。自己の欲求と世間から求められるものとの間に生じる齟齬と、それを我慢する虚しさや苦しみを描きたいと思い制作しました。

空をかすめる　Skim in the Sky

中村 七海

なかむら ななみ／NAKAMURA Nanami



1977 大阪府高槻市に生まれる｜2000 日展 入選（同02、14～18、22、23年、21年京都新聞社賞）、京展 入選（京都市立美術館 同01、13～15年、17年栖鳳賞）｜2015 Artist Group 風 大作公募展 入賞（東京都美術館 同16、20年入賞）｜2017 京都市立芸術大学大学院後期博士課程修了｜2021 企画展「花ごよみ」福田美術館買上（嵯峨嵐山文華館／京都）｜2022 小倉山荘 竹生の郷展示　大阪浜美屋ホールディングス買上

現在 日展会友

◎本展出品作について作家より

早秋の朝霧の中、上野橋を自転車で渡ると、桂川に映った愛宕山に挟まれて、空を手に入れたような気分になる。いつも創造力は勝手に先走って、手の届かない現実に打ちのめされそうになるけれど、この瞬間の自由を実感できれば、それでも良いと思えてしまう。

ともども　TO MO DO MO

西田 香織

にしだ かおり／NISHIDA Kaori

1992 大阪府東大阪市に生まれる｜2014 全国美術大学奨学日本画展 奨励賞（三隅中央会館／島根）、創画展 入選（同17、20～23年）｜2015 奈良芸術短期大学日本画コース専攻科修了、春季創画展 入選（同17、19、21～23年）｜2016 京都日本画新展（美術館「えき」KYOTO 同17、20年）｜2019 松伯美術館花鳥画展 入賞（松伯美術館／奈良）、全関西美術展 入選（大阪市立美術館）

現在 創画会会友、京都日本画家協会会員

◎本展出品作について作家より

たくさんのエミューが飼育されている場所に行った時、お互いを気にせずに長い首を交差させながらまるで別のいきもののように、かたまってこちらをちらちらと見ていました。その姿が忘れられず、エミューではない大きないきものを描いているような気持ちで制作しました。

1/1/1

花本 鈴子

はなもと りんこ／HANAMOTO Rinko

1990 富山県黒部市に生まれる｜2011 春季創画展 入選(同12～19、21、23年)｜2012 奈良芸術短期大学専攻科修了、全国美術大学奨学日本画展 奨励賞・石正美術館長賞(三隅中央会館／島根)、創画展 入選(同13、14、16、17、21、22年)

現在 創画会会友

◎本展出品作について作家より

ガラスの器から通る光が空間を拓くさま、光の中に影がさすさま、光と影とものの関係に惹かれています。
物質、現象としての美しさ・おもしろさとともに、ひとやもの、できごとにある境界・分断・連帯・またそれらのグラデーションなどを筆に重ねながら写しとりました。

ゆきつもどりつ　Back and Forth

原田 有希

はらだ ゆき／HARADA Yuki

1986 大阪府八尾市に生まれる｜2010 全関西美術展 第二席（大阪市立美術館）｜2012 佐藤太清賞公募美術展 特選 福知山市長賞(福知山市厚生会館／京都他)｜2013 京都精華大学大学院芸術研究科博士前期課程修了｜2014 京都国際映画祭クリエイターズ・ファクトリー アート部門 優秀賞(元立誠小学校／京都)｜2017 個展「いとほし」(SYSTEMAギャラリー／大阪 同19、20、23年、田川市美術館／福岡 同22年)

現在 京都日本画家協会会員

◎本展出品作について作家より

進んだけれど後戻り、できたはずがやり直し。
何度も同じ所を行ったり来たり。
それでも毎日こつこつと、半歩ずつ進む彼女の日々。

狭間　Blending Boundaries

伴　鈴子

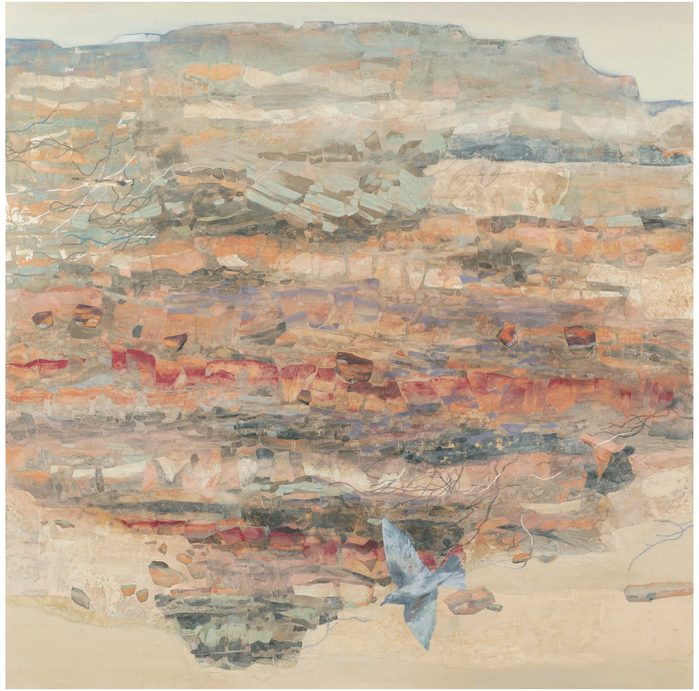
ばん すずこ／BAN Suzuko

1982 神奈川県横浜市に生まれる｜2011 京展 入選（京都市美術館 同13、14年）｜2015 京都日本画新展（美術館「えき」KYOTO）｜2016 院展 入選（同18、22、23年）｜2018 春の院展 入選（同23年）

現在 日本美術院院友、京都日本画家協会会員

◎本展出品作について作家より

取材地は京都の大文字山。
整然と整備された林はとても美しい。同時に、切り落とされる前の好き勝手に伸びた枝の造形も美しい。そこから射し込む陽の光も美しい。
自然と人工物の境界はどこなのだろうと思う。



地は唄う　The Ground Sings

前川 祥子

まえかわ しょうこ／MAEKAWA Shoko

1987 京都府宇治市に生まれる｜2009 創画展 奨励賞（同11年、19、23年創画会賞）｜2010 春季創画展 春季展賞（同16、17、22年）、松伯美術館花鳥画展 優秀賞（松伯美術館／奈良 同11年、15年大賞）｜2012 京都精華大学大学院芸術研究科博士前期課程修了｜2015 石本正日本画大賞展 準大賞（浜田市立石正美術館／島根）

現在 創画会准会員、京都日本画家協会会員

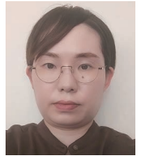
◎本展出品作について作家より

京都市北西部にある地層をモチーフに描きました。地球の様々な自然現象により悠久の時をかけて造られた形からは大地の大きな鼓動が感じられます。うねりながら続く岩石のリズムや自然の鮮やかな色彩に触れ、その魅力を表現したいと思いました。

一隅を照らす　Brighten the World in Your Corner

山元 麻衣

やまもと まい／YAMAMOTO Mai



1983 京都市に生まれる｜2001 京都市立銅駝美術工芸高等学校日本画科卒業｜2005 京都嵯峨芸術大学芸術学部日本画分野卒業｜2017 個展（ギャラリー中井／京都）｜2021 本巣市美術展 市長賞（本巣公民館・本巣すこやかセンター／岐阜）、ぎふ美術展 ぎふ美術展賞（岐阜県美術館）｜2023 尖展（京都市京セラ美術館）

現在 グループ尖 所属

◎本展出品作について作家より

「一隅を照らす」の意味は、片すみの誰も注目しないような物事にきちんと取り組む人こそ尊い人である、という意味です。
誰も見向きもしない流木ですが、私には惹かれるものがありました。
その気持ちを作品で表現したいと思い、今回制作しました。

古代の記憶　Ancient Memory

吉田 松之助

よしだ まつのすけ／YOSHIDA Matsunosuke

2019 日春展 入選（同21～23年）、日展 入選（同20、22年）、全関西美術展 入選（大阪市立美術館）、佐藤太清賞公募美術展 入選（福知山市厚生会館／京都他）｜2022 京都 日本画新展（美術館「えき」KYOTO）

現在 京都日本画家協会会員、晨鳥社 所属

◎本展出品作について作家より

今回モチーフとして描いたヒクイドリは、エミューやダチョウと同様に飛翔能力はなく、地面を駆ける鳥類である。
しかし、太古まで遡ると彼らの先祖は羽毛の生えた翼竜であり、青空を飛び回っていたかもしれない。
ヒクイドリをスケッチしていた時、ふとこの鳥の飛ぶ姿が見られたら、それはどんな勇ましい姿なのだろうかという思いに駆られ、今回制作するに至った。

推薦委員
図版

草韻　Grassy Rhyme

石股　昭

いしまた あきら／ISHIMATA Akira

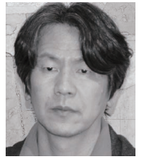
1957 京都市に生まれる｜1982 春季創画展 初入選（同86、88、89、92、93、95年、03年春季展賞）、創画展 初入選（同97、05年、06年創画会賞）、京都美術選抜展 京都府買上（同84年）

現在 奈良芸術短期大学教授、創画会会員

時の囁き　Whisper of Time

雲丹亀 利彦

うにがめ としひこ／UNIGAME Toshihiko



1966 兵庫県姫路市に生まれる｜1989 大阪芸術大学芸術学部美術学科卒業｜1998 創画展 創画会賞（同99～01年）、京都日本画家協会新鋭選抜展 京都府知事賞（京都文化博物館）

現在 京都精華大学教授、創画会会員

常住　Always Be There

大沼 憲昭

おおぬま のりあき／ONUMA Noriaki

1954 石川県金沢市に生まれる｜1976 大谷大学文学部卒業、パンリアル美術協会展 春・秋季展（京都市美術館 同77～93年、93年退会）｜1981 山種美術館賞展 今日の日本画（山種美術館／東京 同87、89、91、98年）｜1990 京都新聞日本画賞展 優秀賞（大丸ミュージアム京都 91、92年大賞、93年招待）

現在 嵯峨美術大学教授

現象 No.18　GENSHO No.18

川嶋　渉

かわしま わたる／KAWASHIMA Wataru

1966 京都市に生まれる｜1989 京都精華大学卒業｜1996 日展 特選（同02年）｜2019 個展「粒であり波である」（大雅堂／京都）｜2023 個展「粒の表情－現象－」（日本橋三越本店／東京）

現在 京都市立芸術大学教授、日展会員

野菜涅槃図　Vegetable Nirvana-zu

西久松 吉雄

にしひさまつ よしお／NISHIHISAMATSU Yoshio

1952 京都市に生まれる｜1979 京都市立芸術大学大学院美術専攻科日本画専攻修了｜1995 山種美術館賞展 優秀賞（山種美術館／東京）｜2010 京都美術文化賞｜2020 京都府文化賞功労賞｜2023 京都市文化功労者

現在 成安造形大学名誉教授、浜田市立石正美術館館長、創画会常務理事

ロードスの遺跡　Ruins in Rodos

村居 正之

むらい まさゆき／MURAI Masayuki

1947 京都市に生まれる｜1968 青塔社入塾、池田遙邨・池田道夫に師事｜1971 日展 初入選（同75、90年特選、18年文部科学大臣賞、94、98、04、10、18、21、23年審査員）｜2020 日本芸術院賞・恩賜賞、日本芸術院会員就任

現在 大阪芸術大学美術学科教授学科長、金沢美術工芸大学客員教授、日展理事、新日春会副会長、日本芸術院会員

出品リスト

	氏名	作品名	素材・技法	サイズ(タテ×ヨコ)
大賞	山部 杏奈	ある部屋の光	麻布、岩絵具、水干絵具、胡粉	162×162
優秀賞	竹下 麻衣	おしゃべりな糸屑たち	麻キャンバス、岩絵具、水干絵具、箔、パステル、木炭	144×144
優秀賞	古谷 優加子	迷子の風	雲肌麻紙、岩絵具、水干絵具、金箔	160×128
奨励賞・京都府知事賞	高山 紀久恵	継ぐ	寒冷紗、アクリル、岩絵具、水干絵具、ジェッソ	162×162
奨励賞・京都市長賞	小熊 香奈子	時がふりつもる	麻紙、岩絵具	130×162
奨励賞・京都商工会議所会頭賞	田中 達也	痕跡	麻紙、岩絵具、アクリル、水干絵具、胡粉、箔	162×130
	荒木 百花	とく	高知麻紙、岩絵具、水干絵具、胡粉	129×161
	石原　葉	Talk to Her	綿布、岩絵具、水干絵具	161×90
	宇野 加奈子	停まる	キャンバス、岩絵具、水干絵具、銀箔	112×162
	及川 美沙	猫又図 －明日も君と－	高知麻紙、岩絵具	161×129
	河嶋 菜々	庭のまたたき	麻紙、岩絵具、水干絵具、色鉛筆	162×162
	岸田 尚子	追憶	和紙、岩絵具、膠、箔	162×97
	合田 徹郎	別様のアルカディア	絹本、墨、岩絵具	156×162
	後藤 吉晃	日々	麻紙、楮紙、岩絵具、胡粉、墨、膠、箔	162×131
	清水　薫	潦	雲肌麻紙、岩絵具	129×161
	上西　樹	囲いの形	高知麻紙、岩絵具	130×161
	竹内 昌二	水景孔雀図	麻紙、岩絵具、墨、銀箔	161×111
	竹内 茉利	巡る	麻紙、岩絵具、水干絵具、箔	131×162
	竹歳 和真	華と遊ぶ	麻紙、岩絵具、水干絵具、墨	161×129
	竹村 花菜	水上のアラベスク	麻紙、岩絵具、水干絵具	130×161
	辻脇 怜奈	あたたかい日	麻紙、岩絵具、水干絵具	162×131
	仲村　葵	赤い靴	木製パネル、綿布、岩絵具、水干絵具、銀箔、パステル	162×162
	中村 七海	空をかすめる	楮紙、岩絵具、水干絵具、墨	162×162
	西田 香織	ともども	麻紙、岩絵具、膠	129×160
	花本 鈴子	1/1/1	麻紙、岩絵具、アクリル	162×150
	原田 有希	ゆきつもどりつ	和紙、岩絵具、墨、箔	162×112
	伴　鈴子	狭間	雲肌麻紙、墨、岩絵具	112×162
	前川 祥子	地は唄う	麻紙、岩絵具、膠、箔	162×162
	山元 麻衣	一隅を照らす	高知麻紙、岩絵具、アートグルー	162×147
	吉田 松之助	古代の記憶	高知麻紙、岩絵具、水干絵具	160×110
推薦委員				
	石股　昭	草韻	麻紙、岩絵具	117×91
	雲丹亀 利彦	時の囁き	雲肌麻紙、岩絵具、水干絵具、金箔	115×90
	大沼 憲昭	常住	麻紙、墨、胡粉、岩絵具、金銀箔、泥	146×91
	川嶋　渉	現象 No.18	楮紙、墨	90×61
	西久松 吉雄	野菜涅槃図	麻紙、岩絵具	99×99
	村居 正之	ロードスの遺跡	麻紙、岩絵具	61×73

「京都 日本画新展2024」選考会を終えて

「京都 日本画新展」は、京都懇談会の提言を受け、2009年に推薦制の展覧会として創設され、筆者は当初から18年まで推薦委員を務めた。今回から新たに編成された選考委員として再び若い作家の作品に接し、発足当時とは異なる発想や表現に少しの戸惑いと大きな期待を抱いた。作家の日常を通して生まれる創作の多様化は、日本画表現への新たな兆しでもある。また一方では日本絵画の本質でもある二次元表現への回帰と展開を予兆する作品、あるいは日本画材の特質を独自の技法で表した作品など平面絵画の可能性を探る真摯な取り組みにも出合うことができた。

そのような力作が並ぶ会場で始まった選考会では、まず全委員の５名がそれぞれの投票により、賞候補の11作品を選考した。さらに11作品の中から再度投票を行い、３作品を選考し、その選考理由も各委員から講評された。その後は、それぞれの得票数と５名の講評内容を踏まえて話し合いを重ねた結果、満場一致で大賞と優秀賞２作品を決定した。また、奨励賞３作品については、決定した三賞を除いた作品の中から、日本画家以外の３名の委員により、独自の視点と感性を基に選考が行われ、各賞が決まった。今回出品された全作品は、いずれも次代への日本画表現の可能性を模索する直向きな挑戦であり、各作家の今後の発展に期待を寄せて選考を終えた。

（大野俊明／日本画家、成安造形大学名誉教授）

「京都 日本画新展2024」に寄せて

今回の選考は、関西の芸大美大卒業生の若い方々の作品を初めて拝見するということで、楽しみにしていました。選考会当日は、会場に並んだ30点の作品をゆっくり拝見しながら、絵を自然体で素直に表現をしている、ということを全体の印象として感じました。心に残る作品を何点か挙げておきます。仲村葵《赤い靴》は透明感のある人物像の不思議なフォルム、物語性のあるテーマが魅力的でした。山元麻衣《一隅を照らす》の潔い色と形や線描。合田徹郎《別様のアルカディア》のクラシックな表現に見られる現代性。紙面が限られているので、残念ながらこれ以上書くことができないのですが、それぞれが自分の世界観を持つ絵画で今後を期待できました。今回の受賞作の３点について少しお伝えいたします。大賞の山部杏奈《ある部屋の光》は今回の作品群の中でも抜きん出ていました。自宅の窓辺を何度も描くことで、その時に見える窓辺の光と造形を追求し、瑞々しい感性で表現しています。麻布に岩絵具や水干絵具の手法も大変美しく、大賞に相応しい作品でした。優秀賞の竹下麻衣《おしゃべりな糸屑たち》はテーブル上の糸屑や布のフォルムと線描、余白への意識も感じられて、日常をドローイングのように表現しているところが新鮮です。古谷優加子《迷子の風》は独創的で不思議な絵画世界に惹きつけられました。岩絵具の使い方が独特で、色彩も大変美しく、優秀賞に相応しい絵画でした。

皆さんのこれからの作家活動を大変楽しみに思う選考の日でした。

（内田あぐり／日本画家、武蔵野美術大学名誉教授）

語らぬ余地を生かして

表現形式を問わず、なにかを創作するとは作者がそれぞれの手法によって自己を「語る」行為である。今回の「京都 日本画新展2024」に出品された30作品は、いずれも作者のあふれんばかりの内面を形に成した迫力ある作品ばかりだった。一方で作者の意図があまりに多弁に過ぎ、説明が表現を凌駕する作品も散見された。何を語り、何を語らないか。その取捨選択もまた創作の一環であるが、後者を選ぶ方がより困難であり、作品の精度を高らしめることは言うまでもない。

その点において大賞に選ばれた《ある部屋の光》は、語らぬ余地を美術表現に高めた作品だった。日本画の技法を斬新に発揮した点も、多くの選考委員から高い評価を受けた。

若い才能の今後のさらなる活躍を期待するとともに、新たな門出を心から祝福したい。

（澤田瞳子／小説家、同志社大学客員教授）

存在感を見据える

日本画といえば、私は上村松園の《花がたみ》を思います。素晴らしい運筆の絹本で、透明感がありながらもの狂う女性の内面を描いた存在感のある作品です。令和５年10月に下京区に移転した京都市立芸術大学の原点である京都府画学校出身です。

今回ものづくりの立場から審査をさせていただいて、さまざまな表現方法に圧倒されました。残念ながら絹本に見る伝統的な運筆を感じさせるものはありませんでしたが、透明感を醸し出すもの、背景を感じさせるもの、物語を内包するものなど各作家が向き合う主題と表現方法が多種多様で、自分自身がぶれないように描かれた主題の存在感を見据えました。

受賞には至りませんでしたが、吉田松之助氏の《古代の記憶》の存在感とシルエットのデザイン性、合田徹郎氏の《別様のアルカディア》の緻密な具象表現にも心惹かれました。

（下出祐太郎／蒔絵師、京都産業大学名誉教授）

若手日本画家の熱意を感じて

本展に初めて選考委員に就任させていただいた。推薦を受けた作家による30作品には日本画ならではの表現方法が窺われる。大賞の山部杏奈《ある部屋の光》は、どこまでも静かな独自の空間表現で、奥に伝統の香りも感じた。優秀賞 竹下麻衣《おしゃべりな糸屑たち》は画面の透明感、対象物の設定が魅力的で、テーマ、表現力に確かさが感じられる。同じく優秀賞 古谷優加子《迷子の風》は、植物や昆虫、少女２人が象徴的で日本画特有と思われる色調が印象に残る。奨励賞・京都府知事賞 高山紀久恵《継ぐ》は、踊る所作の一瞬から受け継がれていく時の安らぎや幸福感が伝わってくる。奨励賞・京都市長賞 小熊香奈子《時がふりつもる》は、モチーフのレイアウトも優しく全体の和やかな雰囲気が快い。奨励賞・京都商工会議所会頭賞 田中達也《痕跡》は、日本画としての選択テーマや表現技法に独自のコンセプトが感じられる。日本画に懸ける若手の熱意が伝わってくる意義深い機会であった。

（村上良子／紬織作家、重要無形文化財保持者）

京都日本画新展 2024

発行日　2024年２月２日
発　行　京都新聞
制　作　ニューカラー写真印刷株式会社